

竹下復興大臣ぶら下がり記者会見録

(平成27年 7月12日 (日) 17:23～17:29 於) 福島県会津若松市)

1. 発言要旨

今日は、最初はバイオマス発電所を視察させていただきました。全国のいわばモデルになるようなバイオマス発電でして、全国から毎年500人ぐらいの視察が来るというふうにおっしゃっております。これから普及していけば、どんどん普及していけばいいと、こう思っております。

それから、その次は会津大学の最先端のICTラボを視察させていただきました。学長を初め、先生方から専門的な話、いろいろなやりとりもやらせていただきましたし、将来的には浜通りに会津大学の第二キャンパスでもできないものかというような問いかけを私からさせていただいたところでございます。

そして、3カ所目として、ここG C l u eを視察させていただきました。ここで見て感じましたことは、かつてマイクロソフトも全てそうありますが、アメリカでガレージから物事がスタートをした。そういうものをまさに彷彿とさせる中身でございまして、取り組んでいらっしゃる皆さん方の熱意、あるいは半分遊びながらという、これが大事なところなんです。仕事に追いまくられるんじゃないで、半分は遊びながら物を作り出していく、これが多分新しい物作りの1つの方法であろうとも思うわけでありまして、そういう意味で、この蔵で仕事をしていらっしゃる皆さん方の将来、これが地域の起爆剤にももちろんなりますけれども、日本の起爆剤が地方のどこから出てくるかわからんと。東京だけじゃない、どこから出てくるかわからんと。ぜひ会津の皆さんにも頑張ってもらって、世界に飛び立つ会津からの情報発信、あるいは新しい物の考え方のシステムの発信といったようなものができるようになればいいと、こう感じた次第でございします。

私からは、以上でございします。

2. 質疑応答

(問) 先ほども最初の所感のほうで言っていたんで、改めて今日バイオマス電力、本当に各地、あそこが初めてじゃない、他にもあると思うんですけども、あそこがいいところ山林の整備だと思うんですけども、そういった中で、今日実際に見て、もう一度改めて所感というか、聞かせていただけますか。

(答) 私のふるさとの島根でも今2カ所造ろうとしておりますけれども、一番苦しんでおるのが木材チップの調達。それをできれば100%地元から調達をしたいと。島根にも山はいっぱいあるんです

が、それをどう調達していくかというのが、この会津で今うまくいっている、機能している1つの大きな鍵なんです。山の整備をする、あるいは間伐をする。それを投げ捨て間伐にしないで、きちんと回収をして、チップとして再利用すると。廃材も使っていくと。そのことによって、地場から、地元でチップが供給できるという体制を作っていくことが地域が一緒に盛り上がるためには必要なことです。電力を作るだけのシステムじゃなくて、材木をきちんと使う。その材木に携わる人たちも地域の人たちが携わってくれと。地域で盛り上がって電力を作るという、そのシステムを今日視察させていただいたバイオマス発電所は造り上げている。だから、全国から500人もの視察が来ると。これは日本にどんどん広げていかなければなりませんし、バイオマスの材料、日本にはたくさんあるんです。だけど、うまくそれを100%地元材を使いながらやっていくというシステムがまだ未完成なものですから、それをしっかりとやり抜いていかなきゃならぬと、こう思っております。

(問) 特に福島がそういった電力のことに關しては、すごく厳しい目があると思うんですけれども、そうした中で今後国としてどう携わっていくかというのは、何かお考えでしょうか。

(答) まずは福島について言いますと、とにかく福島は「俺たちは再生エネルギーで生きていくんだ」と、こう決めたわけですから、そこに向かって日本の先頭を走ってくれて、どんどん走ってくれという思いが1つあります。

それから、国が何ができるかと。1つは、今までやってきたことの中の1つは、そうしたバイオマス、あるいは太陽光、風力等々のエネルギーを電力会社に買いなさいという法律を作って、それを適用してまいりました。この値段についていろいろ問題があることは事実です。これは度々見直していかなければならない話ですが、それとこれからやっていくことは、特にバイオマスについて言いますと、先ほどお話ししましたように、山の管理、山の開発が同時並行的にできていくような、そういうシステムを日本で完成をしていかなきゃならぬと。この会津のうまくいっている例を1つの大きく参考にしまして、国としても関与をしていかなきゃならぬ課題だなど、こう思っております。

(以 上)